

自 令和△年△△月△△日
至 令和△年△△月△△日

今回、報告する事業年度
を記載してください。

令和△年△△月△△日

(宛先) 旭川市農業委員会会長

主たる事務所の所在地
法人の名称
代表者氏名
電話番号
F A X

旭川市●●町●丁目●
株式会社 ○○
旭川 太郎
□□-□□□□
□□-□□□□

下記のとおり農地法第6条第1項の規定に基づき報告します。

記

1 法人の概要

要件1「農事組合法人」「株式会社(非公開会社)」「有限会社」「合同会社」である必要があります。

法人の名称及び 代表者の氏名	株式会社 ○○ 代表取締役 旭川 太郎				
主たる事務所の所在地	旭川市●●町●丁目●				
経営面積 (ha)	所有農地の 有無	有・無			
	区 分	旭川市	○○町	町	合計
	田	○○.○ (ha)	○○.○ (ha)		○○.○ (ha)
	畑	○○.○ (ha)	○○.○ (ha)		○○.○ (ha)
	採草放牧地	○○.○ (ha)	○○.○ (ha)		○○.○ (ha)
	合 計	○○.○ (ha)	○○.○ (ha)		○○.○ (ha)
法人形態	株式会社, 特例有限会社 等				

※10町は10ha, 1反は0.1ha になります。

2 農地法第2条第3項第1号関係

(1) 事業の種類

区 分	農 業		左記農業に該当しない 事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
実 績	水稲トマト	水稲作業受託 トマト ジュース製造 直売所	除雪
翌事業年度の計画	水稲トマト	水稲作業受託 トマト ジュース製造 直売所	除雪

次頁の売上高〔農業〕の欄に記入する事業

〔左記農業に該当しない事業〕の欄に記入する事業

(2) 売上高

要件2「農業の売上高」>「農業に該当しない事業の売上高」である必要があります。

年度	農業	左記農業に 該当しない事業	
報告対象年度の2年前(実績)	0,000.000円	0,000.000円	前々回決算の売上高
報告対象年度の1年前(実績)	0,000.000円	0,000.000円	前回決算の売上高
報告対象年度(実績) (今回決算の売上高)	0,000.000円	0,000.000円	今回決算の売上高
翌事業年度の計画(見込み)	0,000.000円	0,000.000円	今期見込の売上高

3 農地法第2条第3項第2号関係（構成員（議決権を持つ者、社員、組合員）の全ての状況）

(1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地中間管理機構、地方公共団体、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社、農業経営基盤強化法に基づく関連事業者等）

※ 農業関係者(法人以外)とは農業への年間従事日数が原則150日以上を指します。

150日未満の方は(2)に記載いただくこととなりますが、一定の条件を満たすと該当しますので、ご相談下さい。

氏名又は 名称	住所又は主たる 事務所の所在地	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	議決権 の数		構成員が個人の場合は 以下のいずれかの状況				
				株主 総会	種類 株主 総会	農地等の 提供面積 (㎡)		農業への年間 従事日数 (日)		農作業 委託の 内容
						権利の 種類	面積	直近 実績	翌事業 年度の 計画	
旭川 太郎	東旭川〇〇	日本		100		賃貸借	3,000	250	250	
旭川 花子	永山〇〇	日本		80		法人に対して農地 を提供している場 合は、その旨及び 面積を記載		200	200	
深川 二郎	深川市〇〇	日本		60					220	220

その法人の行う農業に必要な年間総労働日数：**670** 日 上記の表に記入した年間従事日数の合計

(2) 農業関係者以外の者（(1)以外の者）

氏名又は名称	住所又は主たる 事務所の所在地	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	議決権 の数	
				株主 総会	種類 株主 総会
旭川 一太郎	東旭川〇〇	日本		40	
旭川食品(株)	永山〇〇	日本		20	

要件3 [(1) 農業関係者の議決権]の数が[(2) 農業関係者以外の議決権]の数の過半を超える必要があります。

	議決権の数		議決権の割合	
	株主総会	種類株主総会	株主総会	種類株主総会
(1) 農業関係者	240		80(%) ←	
(2) 農業関係者以外の者	60		20(%)	
計	300		100(%)	

50%を超えている必要があります。

※(1)及び(2)の議決権の割合の合計が100%となるよう記入してください。

(留意事項)

構成員であることを証する書面として、組合員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。

なお、農業漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法（平成14年法律第52号）第5条に規定する承認会社を構成員とする農地所有適格法人である場合には、「その構成員が承認会社であることを証する書面」及び「その構成員の株主名簿の写し」を添付してください。

4 農地法第2条第3項第3号及び第4号関係

要件4 理事、取締役の過半(1/2 超え)が、法人の農業に常時従事(原則年間150日以上)する構成員(出資している方・株主)である必要があります。また、理事、取締役または重要な使用人のうち、1人以上が農作業に一定日数(原則60日以上)従事する必要があります。

(1) 理事、取締役又は業務を執行する社員全ての農業への従事状況

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への 年間従事日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績	翌事業 年度の 計画	直近実績	翌事業 年度の 計画
					旭川 太郎	東旭川〇〇	日本	
深川 二郎	深川市〇〇	日本		取締役	220	220	120	120
旭川 三郎	東鷹栖〇〇	日本		取締役	0	0	0	0

前ページ「農業への年間従事日数」と同じ日数を記載。

「実際に耕地で作業をする日数」を記載
注:60日以上が1名以上必要です。

※理事等の状況は法務局の登記情報と照合しますので、理事の移動があったにも関わらず未登録である等、登記と異なる場合は株主総会の議事録等の資料を添付して下さい。

(2) 重要な使用人の農業への従事状況

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への年間従事日数			
					農業への年間従事日数		必要な農作業への年間従事日数	
					直近実績	翌事業年度の計画	直近実績	翌事業年度の計画
<p>※この欄は、(1)の理事等のうち、法人の農業に年間150日以上従事し、かつ、農作業に年間60日以上従事する者がいない場合のみ記載してください。</p>								

(2)については、(1)の理事等のうち、法人の農業に常時従事する者（原則年間150日以上）であって、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第8条に規定する日数（原則年間60日）以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。

また、記載された使用人が確実に法人で雇用されているかどうかを確認できる書類を添付してください。

例：雇用契約書の写し、法人代表者が発行する証明書（任意様式）など

○ その他（北海道独自調査項目、任意回答）

[就業者(常雇い)がない場合は「0」を記入のこと]

- 新規採用の就業者（常雇い）の状況

	本事業年度	前事業年度
新規採用の就業者数（前職が農業及び下表①・②の外国人を除く）	※この欄は、新規採用の就業者がいる場合にのみ記載してください。	

- 就業者（常雇い）の状況 **※該当者がいる場合にのみ記載してください。**

	本事業年度	前事業年度
就業者数	10	10
うち外国人技能実習生①	3	3
うち特定技能外国人②	3	3
うち上記以外の外国人	0	0

※就業者（常雇い）

あらかじめ、年間7か月以上の契約（口頭の契約でもよい。）で主に農業（関連事業を含む）のために雇った人（期間を定めずに雇った人を含む。4(1)の理事等を除く。）をいう。

※就業者数

当該事業年度において雇った就業者（常雇い）の人数の合計をいう。

(記載要領)

- 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等を含みます。
 - その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業
 - 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
 - 農畜産物若しくは林産物を変換して得られる電気又は農畜産物若しくは林産物を熱源とする熱の供給
 - 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
 - 農業生産に必要な資材の製造
 - 農作業の受託
 - 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
 - 農地に支柱を立てて設置する太陽光を電気に変換する設備の下で耕作を行う場合における当該設備による電気の供給
 - 農業と併せ行う林業
 - 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業
- 「2(1)事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。

3 「2(2)売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。

4 「3(1)農業関係者」は、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法第5条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の議決権の数とともに、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を括弧書きで記載してください。

複数の承認会社が構成員となっている法人にあつては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。

また、法人が農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号）第16条の3第1項に規定する認定経営発展法人である場合には、同法第16条の5に規定する提携事業者該当する構成員の氏名又は名称に○を付してください。

5 「議決権の数」及び「議決権の割合」の「種類株主総会」欄には、会社法（平成17年法律第86号）第108条第1項第8号に掲げる事項についての定めがある種類の株式を発行している場合に記載してください。

6 農地中間管理機構を通じて法人に農地等を提供している者が法人の構成員となっている場合、「農地等の面積（㎡）」の「面積」欄には、構成員が農地中間管理機構に提供している農地等のうち、農地中間管理機構が法人に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等の面積を記入してください。

7 2、3及び4の翌事業年度の計画の欄は、報告に係る事業年度の翌年度の計画を記載してください。

8 2の翌事業年度の計画、3の住所又は主たる事務所の所在地、国籍等及び翌事業年度の計画並びに4の国籍等及び翌事業年度の計画の各欄については、農地を所有する農地所有適格法人のみ記載してください（ただし、3の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等の各欄については、総株主の議決権の100分の5以上を有する株主又は出資の総額の100分の5以上に相当する出資をしている者に限る。）。

国籍等は、住民基本台帳法（昭和42年法律第81号）第30条の45に規定する国籍等（日本籍の場合は、「日本」）を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国（内国法人の場合は、「日本」）を記載してください。

【この報告書に添付する書類のチェックリスト】

- ① 定款の写し
(以前に農業委員会に提出していて、その後定款変更をしていない場合は、省略可能)
- ② 農事組合法人の場合は、組合員名簿、株式会社の場合は株主名簿の写し
※ 持分会社の場合は、定款で確認できることから、添付不要
- ③ 承認会社が構成員となっている場合には、その構成員が承認会社であることを証する書面とその承認会社の株主名簿の写し
- ④ 使用人を農作業の従事者とする場合（4(2)に記載をした場合）には、その使用人を確実に雇用していることを証する書面（雇用契約書の写し・法人代表による証明書など）